

2. 火山の概況 (平成 20 年 1 月 4 日 ~ 平成 20 年 1 月 10 日)

いずれの火山も予報警報事項に変更はない。現在の各火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況は以下のとおりである。



図 1 噴火警報発表中の火山

○ 火口周辺警報

噴火警戒レベル 2、火口周辺規制 : 桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
火口周辺危険 : 三宅島、硫黄島

○ 噴火警報

周辺海域警戒 : 福徳岡ノ場

○ 噴火予報

噴火警戒レベル 1、平常 : 樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、
浅間山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、
霧島山(御鉢、新燃岳)
平常 : 上記以外の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入している(現在、噴火警戒レベルを導入している火山は 16 火山である)。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

め あ かんだけ

雌阿寒岳 [噴火予報（平常）]

9日18時頃から体に感じない小さな火山性地震が増加し始め、翌10日には日回数が440回となった。10日23時以降は、一時間あたり数回程度と減少したものの、地震多発前の状態には戻ってなく、やや多い状態が続いている（11日12時現在（期間外））。

今回の活動は、2006年3月のごく小規模な噴火に先行した活動に比べると、地震の振幅は小さく、火山性微動も観測されていない。また、噴煙の状況や地殻変動にも変化はない。

現在のところ、雌阿寒岳では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられておらず、従来と同様、噴火予報（平常）が続いている。

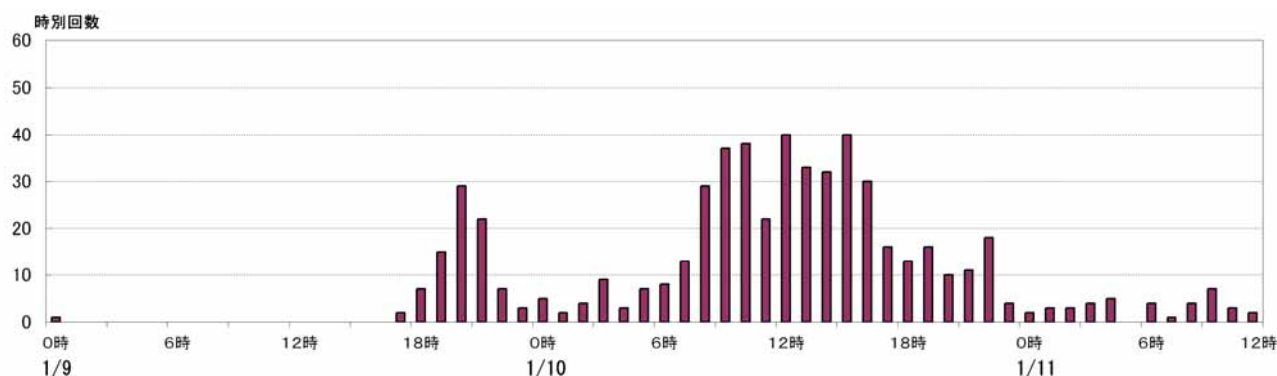


図2 雌阿寒岳 火山性地震時別回数（11日12時現在）

み や け しま

三宅島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

7日06時54分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上300mまで上がり、南東に流れるのを観測した。7日午前中に行った現地調査では、山頂火口から約3kmの島の東から南東の範囲で微量の降灰が確認された。噴火が発生したのは2006年8月23日のごく小規模な噴火以来である。

火山性地震はやや多い状態が続いており、7日06時54分には空振¹⁾を伴う振幅のやや大きなやや低周波地震²⁾が発生した。

噴煙高度は火口縁上100～200mで推移した。

8日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,400～2,400トン（前回12月21日、1,100～1,900トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火等に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要である。

1) 噴火などで発生した空気急激な圧力変化が大気中を周囲に伝わる現象。

2) 周期のやや長い波を特徴とした地震。

い お う とう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの現在も継続している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要である。

福徳岡ノ場^{ふくとくおか の ば} [噴火警報（周辺海域警戒）]

海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福徳岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では警戒が必要である。

桜島^{さくらじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

7日に南岳山頂火口で爆発的噴火が発生したほか、4日及び6日にごく小規模な噴火も発生した。

火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

8日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり800～1,400トン（前回12月14日、600～1,100トン）と2007年10月頃からやや多い状態で経過している。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ^{あいらい}（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では今後も南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

薩摩硫黄島^{さつまいあうじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

口永良部島^{くちのえらぶじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

口永良部島では新岳火口^{しんだけ}から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

諏訪之瀬島^{すわのせじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口^{おたけ}から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられない。